

為了本身歷史地位而焦慮的馬總統

台灣各地對於學生們的行動多抱持著同情或認同的態度，其背景因素就是馬英九總統從上任以來採取了「兩岸在經濟上密切合作、但政治上維持一定的距離」的態度，但這個微妙平衡開始出現了變化，導致民眾出現戒心。而台灣媒體開始報導馬英九可能會出席 APEC，並與中國領導人習近平進行會談的憶測，隨著這些相關報導的篇幅增加，民眾的危機感也開始提高，擔心馬英九會不會為了個人的歷史地位而在一些問題上過度讓步。

兩岸服務貿易協定本身存在著複雜的利害關係，當中也包括對台灣有利的要素，所以無法單純的將其概括為「台灣接受的話就完了」，但馬政府一開始與相關業界進行的說明等事前準備就不夠充分，又在焦慮下強硬推動國會通過協定，反而加深了各界的疑慮。而學生們透過了強烈的動作，成功的展現出台灣人不希望被中國併吞的感情。

由於這次的學運，馬英九出席 APEC 的可能性已經完全消失，馬習會舉行的可能性也幾乎趨近於零。今後兩岸間的實務協議雖然還會繼續進行，但其速度會緩慢下來下的可能性較高。只是，中國的對台統一工作並非鬆手，所以台灣內部恐怕將持續動盪。

手柄を焦った馬總統



東京外国語大准教授

小笠原欣幸氏

台湾の学生らの行動に多くの同情や共感が集まった背景には、馬英九總統が就任以来維持してきた「経済では中台の緊密化、政治では一定の距離」の微妙なバランスが怪しくなったことへの警戒がある。台湾メディアで馬氏のアジア太平洋経済協力会議（APEC）出席や中国の最高指導者、習近平氏との首脳会談の臆測報道が増え

るにつれ、馬氏が個人的な手柄のため何かを犠牲にするのではないかとこの危険が広がった。サービス貿易協定自体は利害が複雑に入り組み台湾側に有利な要素もあるので、簡単に「これで台湾がおしまいになる」と概括できるものではない。だが、関連業界への説明など準備工作が最初から足りなかった上、焦って協定の批准に突き進んだことが疑念を一層かき立てた。学生らは強烈なパフォーマンスによって、中国に呑み込まれたくないという台湾人の感情を表出させることに成功した。今回の事件によって、馬氏のAPEC出席の可能性は完全に消え、馬・習会談の可能性もほぼゼロになった。今後、中台間の実務協議は続くが、そのペースはスロウダウンする可能性が高い。ただ、中国が統一工作の手を緩めるわけではないので、台湾内部では揺れが続くだろう。

(談)